

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171000252		
法人名	有限会社 ももえん		
事業所名	グループホーム ももえん		
所在地	佐賀県佐賀市川副町小々森1260-1		
自己評価作成日	平成27年12月13日	評価結果市町村受理日	平成28年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成28年1月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの南側には田畑が広がりそこから季節感を感じることができる。小規模多機能ホームと併設しており行き来は自由にできるので、小規模多機能ホームの利用者様と一緒にレクリエーションをしたり声を掛け合ったり交流も毎日ある。「笑顔でその人らしく生き生きと」「持つてる力をフル活用」「自由に自ら生きて行く」を理念とし利用者様一人一人に応じた丁寧な介護ができるように職員は常に努力している。入居者様の状態が重度化し続けているなかで、穏やかに過ごしてもらえるよう取り組み、主治医・歯科医・訪問看護・薬剤師・訪問マッサージ等他職種との連携も大切に行っている。またご家族様とのかわりにも努めており、毎月個別でお便りを出したり家族会や運営推進会議で意見交換を行い信頼関係づくりに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは川副町の西に位置し、東与賀町と隣接する緑豊かな田園風景の中にある。窓からは季節を通して農作物の成長を真近くで見ることが出来る。ホームには小規模多機能型の事業所が併設されており、入居者との交流が盛んに行われていて、入居者が飼い犬をつれて散歩に出掛ける事が日課となっている。ホームの支援体制も充実しており、医者の往診時には薬剤師が同行して、入居者を内服面からサポートし、また訪問マッサージも利用することが出来る等、入居者の生活が充実したものになるよう工夫がなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住みなれた町でその人らしく生活できるようケアを行っている。又職員にも理念が把握できるよう目に付きやすい場所に揚げ意識付けを行っている。	理念は、誰もが目に入りやすい様に玄関に掲げている。職員が意思の統一を図れる様に業務の中心となっている。また新人教育にも利用され、業務の際、判断に迷った時など原点に立ち戻れる様、考え方の指針となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	積極的に地域のイベントに参加したり、施設の行事に参加を呼び掛けコミュニケーションの場できるように努めている。	地域の中での祭りや地区のサロン等に参加しているし、またグループホーム内のイベントには地区の方が参加され、双方で交流が図られている。また区役等にも積極的に参加し地域内で贈えるものがあれば、地域内で購入している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用申し込み者や地域の方にアドバイスや相談を受けている。又一人ひとりニーズに合ったサービスの紹介などが行えるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおむね2ヶ月に1回開催し、利用状況、活動状況、サービス提供の報告を行っている。また意見には全職員にて話し合いよりよいサービスが提供できるよう努めている。	会議の議事録はきちんと記録され整理されていて誰もが閲覧できる様に玄関に掲示されている。会議の中で聞いた報告や講座を業務に積極的に生かす体制がとられている。また内容は職員全体に伝達され意識の統一が図られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的にサービス提供の報告を行い、問題や課題の助言や指導を受けている。	運営推進会議が中心となり連携やアドバイスを受ける体制が整えられている。困難事例への対応も各機関と連携する事により解決が図られる体制となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束の内容を理解できるように、施設内での勉強会や研修会に参加し理解を深め身体拘束のないケアに取り組んでいる。施錠は夜以外はしていない。	職員全員が適切に対応出来る様に常に勉強会を開催し、各入居者毎に対応出来る体制となっている。また接遇や電話対応への配慮も怠りなく実践されている。入居者の突発的な対応にも業務内容を一部変更する等して対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が虐待防止の重要性を理解できるように、施設内勉強会や研修会に参加し虐待があってはならないと意識を強めケアを行うよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内勉強会や研修会に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には納得ができるよう十分な説明を心がけている。又施設ない等も見学して頂き、理解納得をして頂いたうえで契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族には常に意見や要望がないかを尋ねている。出た意見に対し職員全員で話し合い反映させるように努めている。報告は運営推進会議のなかで行っている。	家族会は年3回実施されており、運営推進会議の後に開催されている。意見については職員の方から積極的に出してもらえるように声掛けを実施している。また、質問や問合せがあった場合には運営推進会議の中で検討し、対応可能な事柄は変更し対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務中や月に1回のミーティング等で意見交換の場を設け業務に反映できるように努めている。	職員の意見の集約については全員参加型で実施されている。会議は業務終了後に行われる。また会議中だけではなく、普段の業務中の中でも聞き取りがなされ意見の反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勉強会を行ったり、職員に役職を付け給料水準をあげて職員の努力が形にできるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員による月に1回の勉強会のほか、外部からの講習会等を定期的に行い働きながら知識の習得ができるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職場外での勉強会や研修会等に参加する機会を取り入れ意見の交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の会話の中や日々の表情よく観察し安心して話せる環境作りを努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用申し込み時に不安や意見要望等を聞き家族の不安を和らげ安心して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様と家族様それぞれの状況を踏まえ現段階で1番必要のサービスの提案を行うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の意見を聞き、家族様と連絡を取り、本人、職員、家族様がおなじ気持ちで支援できるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様にも利用者さまの状況や気持ちを伝え、お互いの思いをサポートできるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様や家族様にこれまでの生活歴を聞き、それを元に大切にされていた場所や習慣などを行えるように努めている。	面会はいつでも出来る体制が整えられている。生活歴を家族から伺い対応している。馴染みの場所への外出時には写真を撮る等して、継続的な支援が実践されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	使用者様の意思を尊重したうえで利用者様同士が関わる場を設けお互いが良い関係を築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談時には丁寧に対応しアドバイスをし、これまで同様の支援が行えるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの意見を取り入れ尊重し寄り添いながら、希望にそうように努める。	希望を言える方については、その都度叶える体制が整えられている。言えない方については家族からの聞き取りや、本人の表情やしぐさ等から読み取り対応をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様や家族様に今までの生活歴や習慣を聞き、できる限り生活環境が変わらないように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人ひとりが利用者様の言葉や動き、しぐさ等の観察を行い記録や申し送り等にて現状把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護経過を作成、変更行う際は、本人、家族、職員、医師、訪問看護師等の意見を取り入れ、より良い計画作成に努めている。	希望が取り入れられた計画になっている。アセスメントは担当者制になっており、意見の集約が図られている。また入居初めは生活が不安定な事が多いので、状況に合わせ計画の変更をいつでも出来る体制が整えられている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は利用者個別に行い、情報を共有し合う事で、よりよい介護計画の見直しや実践に生かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様や家族様の意見要望を傾聴し柔軟な対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の際は地域のボランティアに参加していただいたり、万が一の際は、地域の消防署や警察署に協力して頂いており安心して生活ができるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望があれば、本人様のかかりつけの主治医にみていただき、24時間対応可能な体制を行っている。	掛かりつけである内科の医師が24時間対応できる体制となっている。専門以外でも医師同士の連携が取れている。また、受診は原則家族の送迎だが、対応が出来ない時には職員で対応が出来る。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態を契約している訪問看護ステーションに報告行い、適切な助言や指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には状態の把握に努め、ご家族や主治医との情報交換を行い早期退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に指針の説明を行い、本人様、家族様の意思を確認している。又重度化した際はその都度話し合いを行い本人または家族様、主治医と共に納得のいく方法でその時を迎える事ができるよう努力している。	契約時に説明を実施している。しかし状態の変化に応じて柔軟に対応できる体制が整えられている。また職員に対しても看取りについて勉強会を開いており、夜間はいつでも連絡が取れる体制となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会等行い緊急時をあらかじめ予想行い訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防団の協力のもと避難訓練を定期的に行っており。また町内の川副ネットワークとも連携を図り災害時の協力体制をとっている。	年二回の訓練を実施している。地域内での避難ルートの確立も出来ている。災害時に備えて備品の保管を実施している。しかし、地域との連携体制は確立はこれからである。	地域住民や、地元の消防団との連携体制の構築に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員、利用者様を人生の大先輩とし人格を尊重し、プライバシーを損ねない声掛けを行うよう日々努めている。	誘導や普段の声掛けを大切にしている。人生の先輩であることを自覚した対応がなされている。日中は普段着に着替える等、入居者の尊厳が保たれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おちついた雰囲気を作り、利用者様が意思表示、自己決定できるよう努めている。また、意思表示がうまくできない方にはわずかな変化にも気づけるよう観察を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のマニュアルを決めず、入居者のペースを優先し希望に沿った対応が出来るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の自己決定や美容室、好みのお化粧品等を楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に食べたいものを伺い献立に取り入れ、準備や片づけ等も一緒に行う時間を作るようにしている。	食事の準備や後片付けが出来る方は手伝ってもらっている。献立については本人、家族等からの聞き取りを実施して、食事に反映されている。嚥下が悪い方には注意をしながら、食事の提供がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みや食習慣を取り入れながら、栄養のバランス、体調等も考慮し、十分な栄養と水分が摂取できるよう支援している。また個々の状態に応じ食事形態や調理法の工夫を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりにあった(歯ブラシ、クリーナ、液体歯磨き)を使用し口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、訴え時や定期的な声掛けを行い、気持ちよく排泄を行えるように努めている。	個人の状況を把握されており、時間誘導の実践に努められている。また一人ひとりの尊厳を大切にされた対応がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中に食物繊維の多い物を摂取して頂いており、また運動を行い排便を促す働きかけを行っている。また排便チェック表を使い排便対策も取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	24時間入浴ができる体制をとり、気分や体調を考慮し入浴をして頂いている。	2ヶ所の浴槽を使用しながら、入居者の希望に答えている。重度の方には2人体制でリフトも使用しながら安全に入浴できる環境が整えられている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や生活習慣にあった寝具を準備し、気持ちよく休めるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ドクター、薬剤師等と連携をとり、利用者一人ひとりの病気や薬について勉強を行い、全職員が把握できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味を生活の中に取り入れ、また施設内レクリエーション等を行い持っている力を活用し喜びを感じれるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望や体調に応じ、散歩やドライブ、買い物等を行い季節ごとのイベントにも参加できるよう努めている。またご家族様にも協力して頂いており、外泊や外出も行っている。	ホームで飼っている犬との散歩を楽しんでいる。日中は暖かい窓際で過ごしてもらっている。また希望があれば外出できる体制が整えられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自由に買い物ができるように支援する体制ではあるが、現在買い物を希望する方がおられない事や、体調面や理解、管理が困難な方が殆どである。その為、家族様での管理を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ対応している。また声が聞き取れなかったり、手紙を書くのが困難な場合は、代行するなどして支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の南側は一面田畑が広がっており、季節ごとの作物や収穫風景がみる事ができる。窓から入る光はブラインドにて調整できるように工夫している。	居間の窓からは、広々とした田園風景が眺められるよう、座席の配置をされている。廊下には、入居者と家族との写真が飾られ、楽しい雰囲気を感じられる。また、掃除も行き届き、部屋の温度調節もこまめに実施し、心地よい空間になるよう配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人の時間や利用者様同士でも思い思い過ごせるように、ソファや畳も設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族様と本人様とで思い入れや使い慣れた家具を置き、居心地良く落ち着ける環境づくりを行っている。	基本的には自由に持ち込んでいいようになっている。使い慣れた家具や椅子、昔の写真等が部屋に飾られていて心地よい環境になるよう配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	椅子やソファ、ベットなど、一人ひとりの身体機能に応じ対応できるよう、工夫している。		